

デフ水泳

中・長期計画

(2021年～2030年)

2021年7月

一般社団法人

日本ろう者水泳協会





はじめに

当協会は、2016年4月に一般社団法人に移行して5年を経過しようとしていますが、当協会を取り巻く環境が大きく変わっていきます。

スポーツ庁は、2018年12月に「スポーツ・インテグリティのアクションプラン」を策定し、この中では「スポーツ団体における適正なガバナンスの確保」が求められています。

そこで、当協会は、2021年7月に中央競技団体(NF)向けのガバナンスコードを策定しました。

そのガバナンスコードにしたがって、次の「理念」「使命」「行動指針」にもとづいて、2021年～2030年の中・長期計画を立てて、取り組みを進めていきます。

一般社団法人日本ろう者水泳協会 理事長 豊田 律



【理念・使命・行動指針】

理念

- ・ デフ水泳の仲間づくり
- ・ デフ水泳の普及およびレベル向上
- ・ デフスイマーの活動を通じた社会貢献

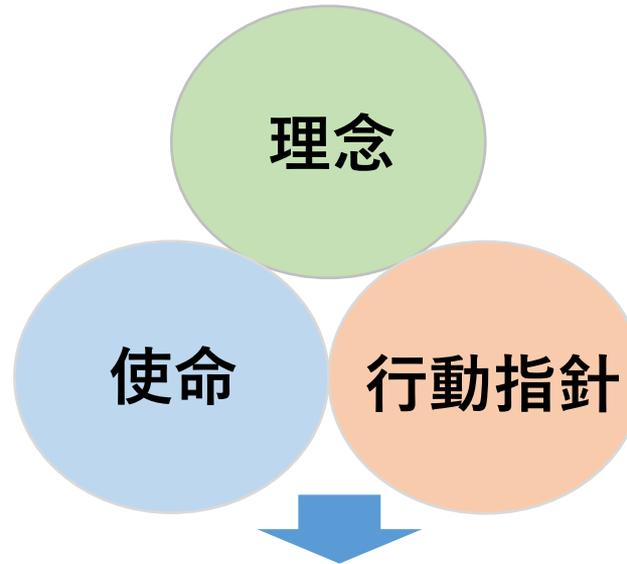
使命

- ・ **国際大会に優秀な選手を派遣して多くの日の丸を上げる！**
デフリンピック・世界選手権・アジア競技大会に優秀な選手を派遣して多くのメダル獲得することで、デフの人々にチャレンジ精神と希望を与える。
- ・ **幼少期からデフ水泳の普及に努め、多くのデフが大会へ参加する！**
「デフ子供水泳教室」を毎年実施し、水泳の普及・参加を促進することで、デフの弱い部分（平衡バランスおよび肺機能）をカバーしてデフの運動能力の向上と健康の増進に寄与し、仲間づくりを促進する。

行動指針

- ・ **デフスイマーを「目指す」「育てる」「発掘する」**
デフスイマーを目指すアスリートの日常練習環境の改善、並びに当協会独自の大会・一般大会およびパラ大会への参加機会を増加させる。
デフ水泳への理解を普及・促進し、パラ水泳連盟とともに日本水泳の発展に貢献する。

中・長期計画の構成



中・長期計画（2021～2030）

I 法人設立以降
5年間の振り返り

II 環境分析

III 活動の方向性

IV 目標設定
アクションプラン

V 財政見通し

◇中・長期計画(2021～2030)を策定するにあたり、当協会のおかれている状況を再確認するため、法人設立後5年間(2016年から2020年まで)の総括をし、2030年までに取り組むべき活動と目標を整理するとともに、目標達成に向けた活動に伴う財政見通しを加え、上に掲げ5つの構成要素から「中・長期計画」を策定しました。



I 法人設立以降の5年間の振り返り



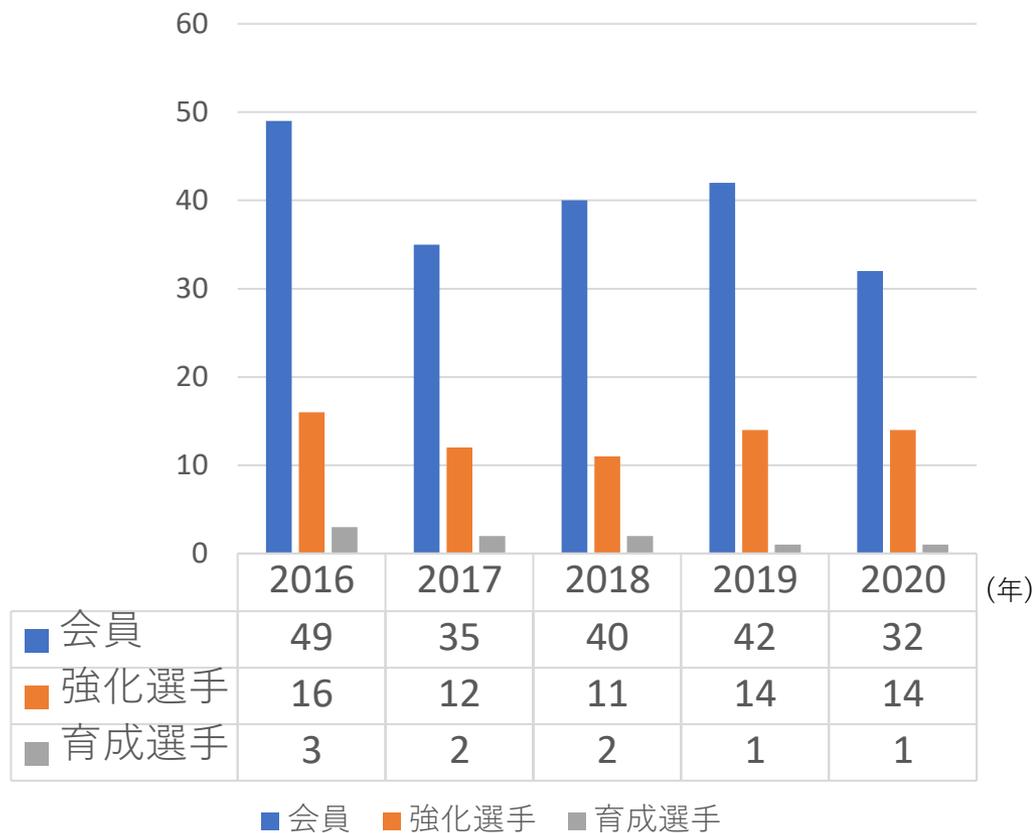
2016年度～2020年度 会員数・指定選手数・育成選手数の推移

○当協会は日本でただ一つの聴覚障がい者水泳スポーツ団体で、2002年9月に設立され、聴覚障がい者の水泳の普及および発展に努めてまいりました。その後、2016年4月一般社団法人に移行しました。

○法人設立後の2016年度～2020年度の5年間を見ると、会員数が減少傾向にあり、運営面において厳しい状態になっています。

○強化指定選手・育成選手の人数は、ほぼ横ばいですが、平均年齢が高くなっています。

会員数・指定選手数・育成選手数の推移





2016年度～2020年度

日本大会

参加人数

推移

○日本大会の正式な大会名は、「日本ろう者水泳選手権大会」といい、日本で唯一の聴覚障がい者の水泳大会です。

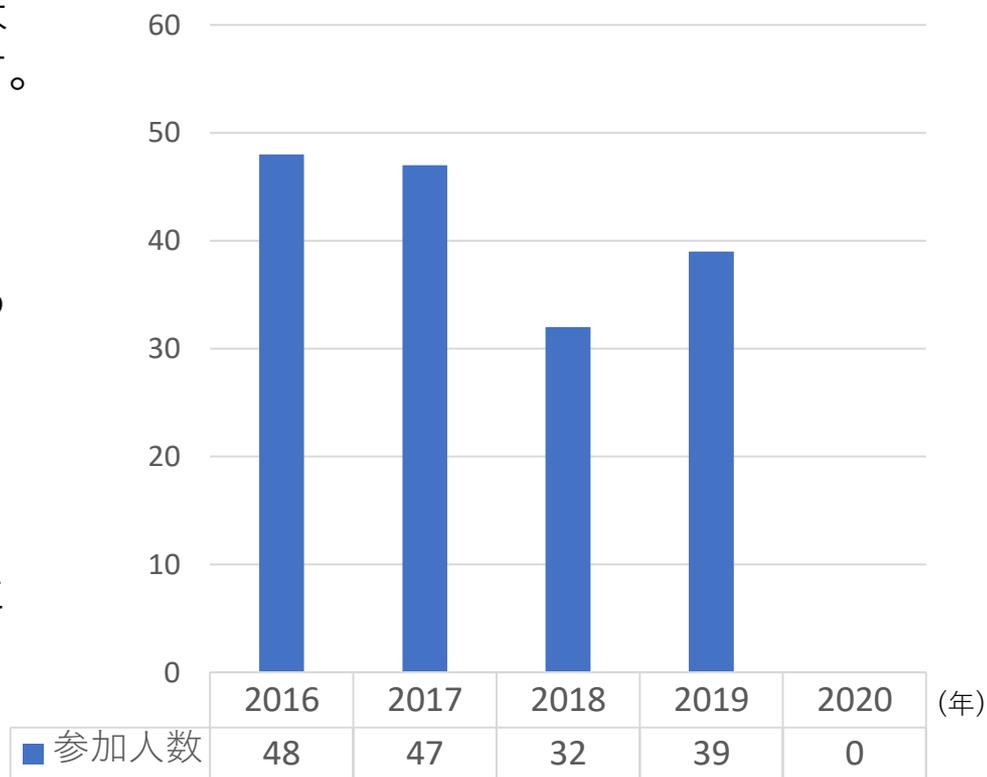
2006年11月に第1回大会を開催して以降、毎年開催されています。

当協会主催のイベントのひとつであり、国際大会の選考会、選手発掘につながります。

○参加人数について法人設立後の2006年度～2020年度の5年間を見ると減少傾向にあり、運営面においてもさらに厳しい状態になっています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、翌年に延期となりました。

参加人数の推移





II 当協会を取り巻く環境



当協会を取り巻く環境（SWOT分析）

内部環境

強み（Strengths）

- ①日本で唯一のデフ水泳団体であること
- ②20年の歴史と伝統
- ③国際大会で常にメダルを獲得
- ④公認の資格を持つスタッフの存在

弱み（Weaknesses）

- ①運営人材の不足
- ②助成金に依存
- ③事務局不在による理事たちの業務負担大
- ④指導者資格制度がない
- ⑤日本大会開催場所・運営の不安定さ
- ⑥キャラクター・グッズがない

外部環境

機会（Opportunities）

- ①パラ水泳連盟との連携
- ②デフリンピックの自国開催と関心の高さ
- ③日本スポーツ振興センター(JSC)と日本パラリンピック委員会(JPC)からの助成
- ④世界からの期待-自国における世界選手権大会開催

脅威（Threats）

- ①デフの少子化
- ②ナショナルトレーニングセンター(NTC)が利用できない
- ③ガバナンスコードなどオリパラと同じ仕組みと評価により負担大
- ④デフスイマーの練習環境が弱い
- ⑤地元のスイミングクラブ等への受け入れが少ない



III 今後の活動の方向性



協会活動の方向

- ◇デフスイマーの練習環境の改善と国際大会で活躍するデフスイマーへの計画的、持続的な強化及び支援。
- ◇デフ水泳に精通した指導員の養成や公認指導員制度の実施。
- ◇初心者からトップアスリートまでの幅広いレベルに合わせた育成プログラムを構築し、子供水泳教室の実施することでデフ水泳の楽しさを広め、世界で活躍できる選手を発掘するなどデフ水泳の普及拡大。
- ◇多くの人にデフ水泳の魅力を伝え、ファンになってもらうことで、賛助会員制度を充実させ、会員増加を図り、組織の持続的発展のための基盤づくり。
- ◇ガバナンス・コンプライアンスについての理解を深め、多くの方から信頼される組織としての取り組みの強化。



IV 目標設定

(アクションプラン)



2021年度～2030年度

会員数・強化選手数・育成選手数 目標

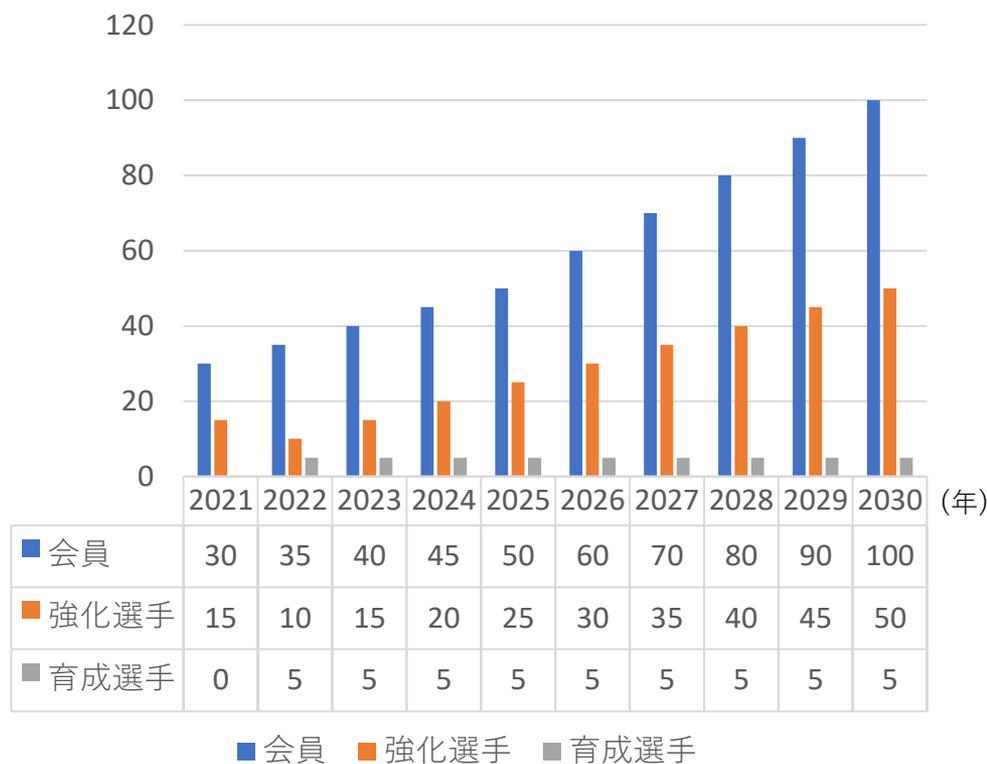
目標：会員数の増加ペースを年5～10名として2030年には会員数を100名にする。

施策：デフ水泳関係者はもちろん、その以外の人々にもファンになってもらうためにファンにとって魅力のある協会のイメージを作っていく。ファン＝賛助会員という、賛助会員制度の構築及び運用に積極的に取り組む。

○強化選手数については、まず、育成選手数を年5名増加し、育成選手から強化選手への昇格も同じく年5名増加する。

子どもの水泳教室を実施するなど育成選手の発掘を積極的に取り組む。

会員数・指定選手数・育成選手数





2021年度～2030年度 日本大会

参加人数 目標

目標：2025年からは参加数の増加ペースを年10名として、2030年には参加人数を100名にする。

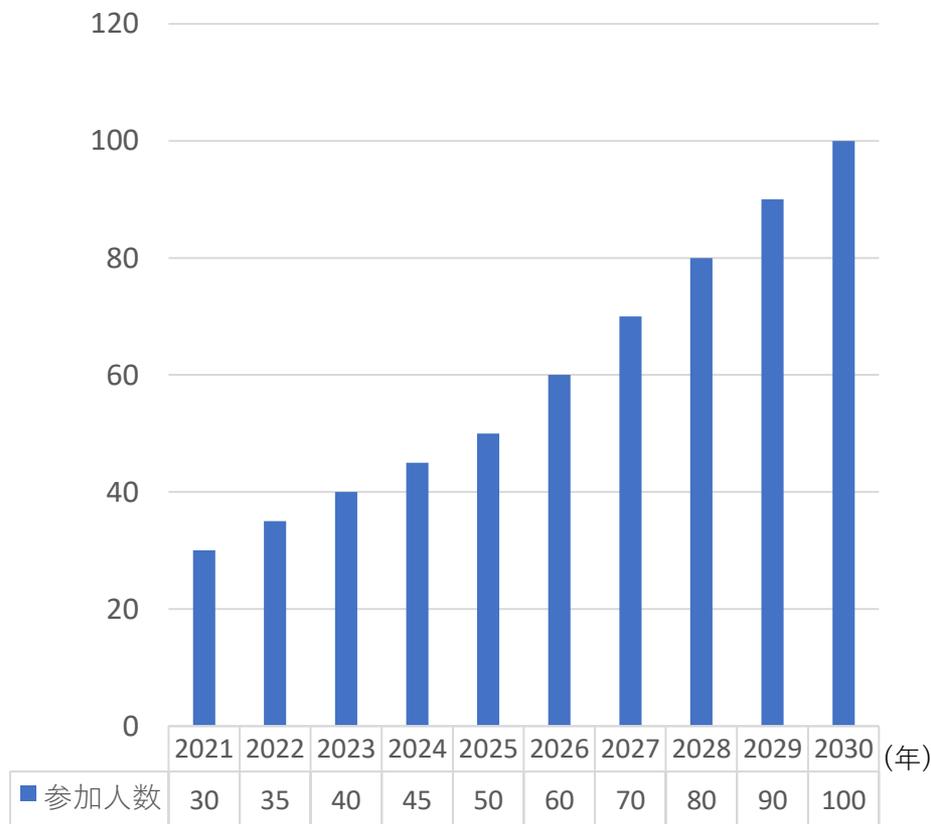
施策：国際大会に準じた大会にするため、大会の記録の公認や登録システムの改善、年少者・高齢者そして女性の大会への参加促進など取り組む。

聴覚障がい者だけでなく、その家族さらに知的障がい者の参加も促進する。

知的障がい者水泳連盟とも協力し、知的障がい者水泳連盟の公認大会として運用する。

○大会中にゲストを招いたイベントを設け、魅力のある大会を目指す。

参加人数





V 財政の見通し

中期財政見通し (2021～2025年5か年計画)



当協会の会員数は、2020年1月からのコロナ禍により会員32名と、2019年から約20%の減少している。そのため、会費収入は年間50万円程度となり、事業の多くは、日本スポーツ振興センター(JSC)や日本パラリンピック委員会(JPC)の助成に依存している。協賛についてもコロナ禍による企業収益の悪化などで、未知数となっている。

2021年から2025年までの中期については、事業の見直し、新たな収益源の模索などを積極的に行うとともに、大会運営事業と一般管理などのコストダウンにより健全な財政運営ができるよう努めていく。

区分	2020年決算	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(円)						
収入の部						
会費参加料	500,000	500,000	580,000	665,000	750,000	830,000
協賛金	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000
助成金	5,000,000	15,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000
その他	42	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
前年度繰越金	3,048,808	3,183,802	2,834,802	2,615,802	2,531,802	2,582,802
計	8,648,850	18,834,802	23,615,802	23,531,802	23,582,802	23,763,802
支出の部						
強化事業	5,009,453	15,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000
大会運営事業	500	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
一般管理	385,095	430,000	430,000	430,000	430,000	430,000
法人税费等	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000
計	5,465,048	16,000,000	21,000,000	21,000,000	21,000,000	21,000,000
次年度繰越金	3,183,802	2,834,802	2,615,802	2,531,802	2,582,802	2,763,802

2021年から2025年までの計画とし、正味財産増減計算書を基にして算出した。アクションプランに向けて会員の増加、日本大会の参加人数の増加、イベントなどの収益体制の強化より、運営の安定化を目指す。



日本ろう者水泳協会・JD&SA